

WHIZZMAN

ALFA ROMEO ASTON MARTIN AUDI BENTLEY BMW PINA BMW CADILLAC CHRYSLER CHEVROLET CITROEN DONKERVORT FERRARI FIAT FORD GINETTA HMC HONDA HYUNDAI JAGUAR LAMBORGHINI LAND ROVER LOTUS MASERATI MERCEDES BENZ MERCEDES BENZ AMG MG MINI MORGAN OPEL PEUGEOT PORSCHE RENAULT ROVER RUF SAAB VOLVO VOLKSWAGEN etc.

20th Anniversary



●人/気/モ/デル/徹/底/攻/略
シトロエン・クサラ・ピカソ

●第2特集:最新チューナーズモデル・スタイルブック

●スペシャル・ステージ・インプレッション:
スマート・フォーフォー

○新○車○購○入○
サポート・プレゼント付き!

20th Anniversary 特別企画
「インポートカーWHIZZMANアワードBEST20」発表!



2005 The latest import cars

2005最新輸入車 ベストバイを探せ!

600YEN(税込)
2005 April VOL.239





新鋭フェラーリ・チューナー、ノビテック・ロッセが最高出力606psを誇るF360スポーツを引き下げて日本上陸を果たした。エンジン、足回り、エアロダイナミクスとトータルチューンを施し、究極なまでに武装された跳ね馬の実力に迫る。

PHOTO/藤田昌久 REPORT/山崎元裕 取材協力&問い合わせ先/ノビテックロッセジャパン ☎03-6425-3555

NOVITEC ROSSO



新たななる跳ね馬の衝撃

The
Latest
Tuner's
Style
Collection **I**

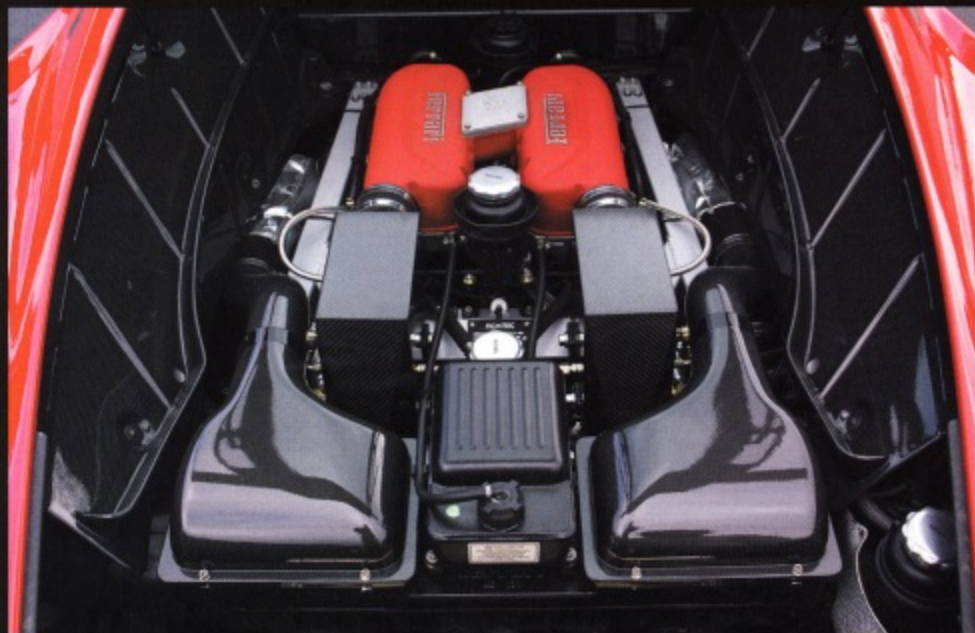
NOVITEC ROSSO



↑センターコンソールはノビテック・ロッソ製のフルカーボン。スイッチ類の配置はF360と同様。ノビテック・ロッソのライセンスプレートはシリアルナンバーが刻印されている



↑ステアリングはSupersportデザインで純正エアバッグ対応。ペダルとフットレストはアルミ製となり、センターコンソール、メーターパネル、ドアトリムなどはフルカーボンを使用



も、少なくともエンジンパフォーマンスでは、圧倒的に優位な立場にあることが瞬時に理解できた。スーパーチャージャーをツインで装着するとはいえ、そのトルクフィールはどちらかといえば自然吸

気ユニットに近い、実に魅力的なトルク特性を持つもの。体感的には、いかなるエンジンスピードからでも、瞬時に必要にして充分な、いや正確にはそれを後輪のみから路面に放出するには、いささかオ



フィアットやアルファ・ロメオなどの、イタリアンブランドを素材に独自のチューニングを展開してきたドイツのノビテック。このノビテックを母体とする、フェラーリのチューニングブランドが、先日日本市場に上陸を果たした、ノビテック・ロツソだ。

実際にこのノビテック・ロツソから、フェラーリベースのチューニングモデルが誕生するまでの時間は、決して短いものではなかった。彼らはその時間が、耐久性を含め、オンロードにおける究極的なパフォーマンスをすべてのパーツで發揮させるために必要なものだったと説明するが、それを説明するかのようノビテック・ロツソの手によるチューニングフェラーリは、日本に先立ってそれが投入されている市場では、カスタマーから非常に高い評価を得ている。それらの極めて好意的な反響を背景に、日本進出を果たしたノビテック・ロツソ。今回はその主力モデルとも言える、フェラーリ360モデナをベースとする「F360スポーツ」に試乗してみた。

アルミニウム製のスペースフレーム、そのミッドに搭載されるパ

ワーユニットこそが、このF360スポーツにとっては最も重要なセールスポイントである。独自のチューニングブレードを組み合わせたツインスーパーチャージャーシステムを、フェラーリ製の3.6ℓ版V型8気筒DOHC5バルブユニットに組み合わせ、さらに専用のラジエター付き水冷インタークーラー、ウォーターポンプ、さらには専用のオイルラインなどを備えるパワーユニットは、0.61barの最大過給圧から、606ps/8600rpmの最高出力と、62.7kgm/6250rpmの最大トルクを發揮するもの。

ノビテック・ロツソでは、ドイツの本社ファクトリーにおいて、このチューニングエンジンの製作を可能としているほか、常時世界中の市場に出張を可能とする技術スタッフを用意。チューニングに必要なパーツ一式とともに、現地でのチューニング作業を可能とするシステムを有している。

フェラーリ自慢のセミAT機構、F1マチックとの組み合わせで体験した、F360スポーツの走り。それは最新のフェラーリ製8気筒バルリネッタであるF430より

The Latest Tuner's Style Collection I

このF360スポーツが最高速とする344km/hは、さすがにこの日本ではそれを体験する舞台はサーキットを視野に入れても、実際には不可能に近いわけだが、そこに至るまでの過程においても、このモデルの優れたエアロダイナミクスは充分にドライバーを感動させてくれるはずである。高速コーナリングで体験できる車体の安定感、それは確実にF430に追いついている。ノビテック・ロッソのチューニングには、おおよそ妥協というものが無い。だからこそ、彼らはずでに世界の市場で大きな成功を収めているのだろう。そしてこの日本においても、その評価は変わらない。



↑フロント8ピストンキャリパー、380mmセラミックディスクプレート、リア4ピストンキャリパー、そしてブレーキパッドがセットのハイパフォーマンスブレーキシステムを装備



↑Supersportフロントバンパーは、高速度域でのエアロダイナミクスとブレーキの冷却効果に最適なデザインを採用。オリジナルバンパーに装着するスポイラータイプもラインナップ



↑風の流れを計算し、効率の良いエアロダイナミクスを生み出すサイドスカート。2タイプ用意され、ロングとショートがラインナップされている。写真はショートタイプ



↑リアウイングは角度2段階の調整が可能。リヤスカートは純正バンパーに装着するタイプとなる。マフラーはステンレス製の90φ×2の左右出し。出口のみの交換も可能



1バール気味なトルクを得ることが可能なのだ。専用のエクゾーストシステムが奏でるサウンドも、常に官能的な響きに終始している。

また、ノビテック・ロツツの手による専用チューニングを受けたサスペンションは、前後に19インチ径のタイヤ（ビレリPゼロ・ロツツ）とセンターロック式ホイールを組み合わせるにも拘わらず、低速域でも節度のある乗り心地を演出している。ちなみに前後に装着される19インチ径ホイールは、まずフロントに8ピストン1380mm径ディスク、リヤに4ピストン1380mm径ディスクという構成のブレーキシステムの開発を先行し、それが完成した後にリム厚などの検討を行なって完成されたものだという。いわゆる曲がる、止まるという部分に関しても、360モデナから、このF360スポーツは、確実に次元の異なるパフォーマンスを得たことになる。

前後のバンパーポイラー、それにサイドスカートや調節式のリヤウイングで構成されるエアロダイナミックセットは、高速域での安定感を、まさに豹変させる原動力となっている。

NOVITEC ROSSO

